平成30年度　ステージⅢ研修　　　　　　　　　　　　　　　　Ｈ３１．１．２９

**「ミシンが足りない」**

＜ケース＞

　Ｙ市Ｂ小学校は、Ｙ市南西部に位置し、Ｂ駅周辺の商店街や国道東沿いに発達した旧住宅地と国道の西沿いに発達した新興住宅地及び周辺の農村部から成り立っています。校区に含まれるＹ南工業団地には、縫製工場や電器メーカー工場、食品工場等の多くの企業が入っています。

Ｂ小学校の児童数は５４０名で、学級数は、普通学級が１８学級、特別支援学級が３学級の合計２１学級の学校です。職員数は４０名で、その構成は、５０代のベテラン層と２０代の若年層が多く、３０代後半から４０代の中堅層が少ない状況です。若年層は、職員室で遅くまで残り仕事をしがちで、ベテラン層と若年層の職場外での交流は少なく、同僚性が発揮されにくい状況です。そのため、コミュニケーションを含めた世代間の格差が懸念され、教科間、学年間の連携にもきしみが生じてきています。

児童の家庭環境は、旧住宅地や農村部は３世代家族が多くなっていますが、新興住宅地は、核家族が多くなっています。地域は教育熱心で、何か学校で行事などが行われると、保護者はもちろん地域の有志も率先して協力する体制が整えられています。

また、共同実施は、Ｂ小学校を含む４小学校とＢ中学校の５校で構成され、５年前から本格的に取り組んでいます。

Ｂ中学校区の共同実施

Ｂ中学校　北川事務長　Ｂ中学校６年目　５４歳（グループリーダー）

Ａ小学校　堀北事務長　Ａ小学校２年目　４７歳（サブリーダー）

Ｂ小学校　栄倉主任　　Ｂ小学校２年目　３５歳 経験年数１４年目

Ｃ小学校　剛力主事　　新規採用 ２３歳

Ｄ小学校　広瀬主事　　Ｄ小学校３年目　２９歳 経験年数７年目

Ｂ小学校の栄倉主任は、学校に忘れ物をしたことを思い出し２０時過ぎに学校に向かいました。学校に着いてみると家庭科室の電気がついています。消し忘れたのだろうかと思いながら校舎内に入ると、採用２年目の佐々木教諭が一人で家庭科室に残っていました。栄倉主任は「こんな遅くまでどうしたんですか？」と話しかけてみると、佐々木教諭は「明日家庭科の授業でミシンを使うんです。でも、私は学生時代に授業で使った程度で、ほとんどミシンを使ったことがなくて、不安だったので練習しようと思って確認していたら、ミシンが動かないんです。」と必死にミシンを直そうとしていました。「それに、ミシンは３人で１台使わせようと考えていたのですが、８台しかなくて１台足りないんです。これでは計画通りの授業ができません。ミシンを買ってもらえませんか？」と言われました。栄倉主任は、『学校評価でもそんなことは出てきていなかったし、備品の希望を取った時も、ミシンが欲しいという希望は出てこなかったじゃない。欲しいならちゃんとそのときに出してもらわないと購入計画に入れられないから困るのよね･･･』と思いながら、一緒に直すのを手伝いました。しかし、用事があったため、無理をせず早めに帰るように伝えて栄倉主任は帰宅しました。

次の日、栄倉主任は家庭科の授業のことが気になったので、授業が終わり職員室に戻ってきた佐々木教諭の元に行き聞いてみました。

佐々木教諭は、

・８台あったミシンは、５台しか使えなかったので、５～６人で１台のミシンを使用することになってしまった。

・ひとつのグループのミシンに糸が絡まると、その班につきっきりになってしまう。そのため、他の班に指示を出せずにいて、先に進んでいる班の児童は指示待ちの間遊んで騒がしくしてしまった。たまたま近くを通りかかった羽生先生が心配をして、授業を覗きにきたが、ミシンの調節中と説明して、大丈夫ですと戻ってもらった。

・遅れている班の児童は、やり方を先生に確認しようとしても、ミシンの調節をしている先生に聞くことができず、より遅れてしまった。

これらの結果、予定通りに授業が進められなかった。

・一人の児童が、ミシンの針が指に刺さり、けがをさせてしまった。

と言って、もっと早くミシンの点検をしておけばよかったと反省をしている様子でした。

栄倉主任は、けがをしてしまった児童が気になり大丈夫か確認をしたところ、佐々木教諭は、手が放せなかったため、一人で保健室に向かわせた。まだ保健室に行っていないけれど、たいしたことはないと思う、と言っていた。

栄倉主任は、児童の様子を保健室に確認に行きながら、今回の件は佐々木教諭だけの問題ではないと感じました。

授業が円滑に進められるようにするために、私はどうしたらよかったのだろうかと頭を悩ませていました。